

新春特別対談

建設業の活躍に一層期待

— 新年の抱負をお願いします。

伊藤 建設業協会の皆様には、一昨年の令和元年東日本台風からの早期復旧・復興にご尽力いただきありがとうございます。感謝申し上げます。引き続き、災害からの復旧・復興にスピード感を持って取り組むとともに、災害に強い県土づくりに向け、インフラの老朽化対策など防災・減災、国土強靱化の取り組みを加速してまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による社会の変化は、わが県の建設業界にも様々な影響を及ぼしております。このような中でも、時代の変化に的確に対応し、本県の発展に寄与する広域交通ネットワークなどの整備を着実に進めてまいります。

— 石津会長は会長として2期目に入りました。1期目及び昨年を振り返るとともに、新年の抱負をお聞かせ下さい。

石津 協会活動は、各支部の活動が基本と考えていますので、会長就任後、支部長さんとの連携を重視し、支部の意見を踏まえた協会運営に努めてきました。

— 一昨年の台風災害では、協会としては初めてとなる他県への災害支援や災害ボランティア活動を実施しました。迅速、かつ、一致団結して対応できたの

国土強靱化の取組みを加速

新年の抱負について

— 各支部長さんとの意思疎通が図られた結果だとも、考えています。

また、昨年は、那珂川及び久慈川の災害復旧関連事業の増加もあり、国・県の公共事業費が大幅な増となりました。一部では、業界の人手不足などを心配する声もあつたようですが、協会全体として取り組むこととしましたので、円滑な事業の実施に協力できたと考えています。

建設業界は、担い手の確保や働き方改革、デジタル化への対応など、多くの課題に直面していますので、今まで以上に役員、会員企業が一致団結し、対応していかなければならないと考えています。

働き方改革について

— 県における働き方改革の取り組みの進捗はいかがですか。

伊藤 働き方改革につきましては、担い手の確保、特に若者の入職促進の観点からも、非常に重要な施策であると感じています。

まず、働き方改革の一端として取り組んでおります「完全週休2日制促進工事」は、若者のニーズを意識し、土曜日・日曜日を固定の休日として定めることが特徴であり、現場作業期間が1カ月以上の工事については、原則、受注者希望型で発注することとしております。令和元年度は105件の工事を完全週休2日制で実施したのですが、今後も、



茨城県土木部 土木部長 伊藤 高氏

伊藤 高(いとう たかし) 1968年7月16日生まれ。52歳。東京大学土木工学科卒。1992年に建設省(現国土交通省)へ入省。国交省道路局国道・防災課道路保全企画室長などを経て、2018年4月、県都市局長に就任。19年4月から現職。愛媛県出身。

国土交通省と同じ経営補正基準を適用するとともに、総合評価方式や工事成績での評価等により、受注者の取り組みを支援していきたいと考えております。

— 業界のこれまでの取り組み、そして今後の取り組みについて石津会長のお考えをお聞かせ下さい。

石津 働き方改革への取り組みは、喫緊に取り組みなければならぬ課題であり、特に、子供の頃から週休2日制が当たり前となっている若者を確保するためには、週休2日制の早期実現は必須と考えています。

— このため、公共工事の一時休日設定の取り組みを一昨年から開始し、当初は1回、昨年4月から月2回、今年4月からは第1・第2・第4土曜日の月3回というように、ステップアップ方式で取り組んでいます。

— 長時間労働の削減、週休2日制導入については、業界の自助努力だけでは難しいものがあり、適正な工期設定や労務費の補正など、民間工事も含め、受注者全体で解決策を考えていくことが必要です。関係各位のご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

ICTの活用と普及について

— 県のICT活用は他の都道府県と比べて先進的と言われます。

伊藤 生産性向上の取り組みとして、より少ない人員・時間で工事を行うICT施工を積極的に導入し、促進してきたところです。

— 特に、ICT施工に関して独自の取り組みを進めており、令和元年度には、国土交通大臣からICT Construction大賞を授与されたところで、ICT施工により生産性を高めていくためには、地元建設業が3次元データの活用に取り組んできたことが重要であると考えており、地元測量・建設コンサルタント業者との協業を促す「チャレンジャー型」建設業者の3次元データ内製化を促す「チャレンジャー型」といった独自発注方式を導入したことについて、評価を頂きました。週休2日制促進と同様、総合評価方式での評価等により、今後も受注者を支援してまいります。

— 石津会長は就任以来、ICT活用に注力し、研修会などを積極的に開催されてきたかと思えます。建設業における生産性の向上についてお聞かせ下さい。

石津 会長就任後の2018年7月には、まずは協会の役員がICTについて理解を深める必要があると考え、常任理事研修として、日立建機さんの工場とICTラボサイトの見学を行いました。

協会事業としては、ICT施工の研修会や現場見学会、ドローン操縦士養成講習会などを開催していますが、ICTを活用できる工事は、規模や工種が限られているのが実情です。

また、3次元データの作成をはじめ、外注に頼らざるを得ない部分が多く、ICTのノウハウが蓄積



私たちは地域の安全・安心を守る「地域の守り手」としての役割を担います



一般社団法人 茨城県建設業協会

水戸市大町3丁目1番22号 TEL029-221-5126(代) http://www.ibaken.or.jp

会長 石津 健光

- 副会長兼竜ヶ崎支部長 細谷 武史
- 副会長兼水戸支部長 大藤 博文
- 副会長兼土浦支部長 小林 伸行
- 太田支部長 瀬谷 實
- 鉾田支部長 羽生 義隆
- 常総支部長 中川原 勇
- 副会長兼高萩支部長 秋山 光伯
- 副会長兼水戸支部長 下田 德行
- 副会長兼境支部長 新井 孝
- 常陸大宮支部長 高野 潔
- 潮来支部長 松崎 里志
- 筑西支部長 小薬 拓巳

他 会員一同

地域経済を支え、社会貢献する すべて私たち建設業の使命です

災害発生時に復旧・復興を急ぐ建設業者の活躍



未来を担う子供たちへ、建設業の夢、魅力をつたえる